

高田城（八幡館、東館）についての資料

陸前高田市教育委員会

1. 高田城について

(1) 歴史上の価値

① 室町～戦国時代に気仙地方を支配した浜田氏の居城である

○浜田安房守広綱（1523 年～1592 年） 戦国時代末に気仙地方を支配した武将

- ・ 葛西晴信（岩手県南、宮城県北を領地とした戦国大名）の重臣
- ・ 気仙郡総領職
- ・ さらに米崎城を築城し、軍事力を強化
- ・ 浜田安房守の兵乱（1588 年）

※これにより、葛西晴信は豊臣秀吉が要求した小田原に参陣できず、秀吉の奥州仕置（1590 年～1591 年）による葛西氏滅亡の原因となる

⇒史料に多くの記述があり、気仙地区では最もよく知られる武将、領主である。

② 高田町を形成した歴史ある城である。高田町は高田城と深く係りあい発達した。

(2) 遺跡としての価値

高田城は縄張り図のⅠ、ⅡとⅢ、ⅣとⅤの 3 つに分けてとらえることができる。

○Ⅰ、Ⅱ

- ・ 丁寧な造成で平坦な平場をつくり、周囲に土塁や櫓台を備える。
- ・ Ⅱの櫓台はしっかりしており、天守と呼んでもさしつかえない櫓があったと推定される。
- ・ 城の構造から、時期は戦国時代末期から近世初頭、秀吉の奥州仕置以後に改修された可能性が高い。

○Ⅲ、Ⅳ

- ・ Ⅰ、Ⅱに先行する城である。
- ・ 全体的に粗野な造成であるが、中世山城の特徴をよく残している。
- ・ 浜田安房守広綱の時代の高田城の姿を残している可能性が高い。

○Ⅴ

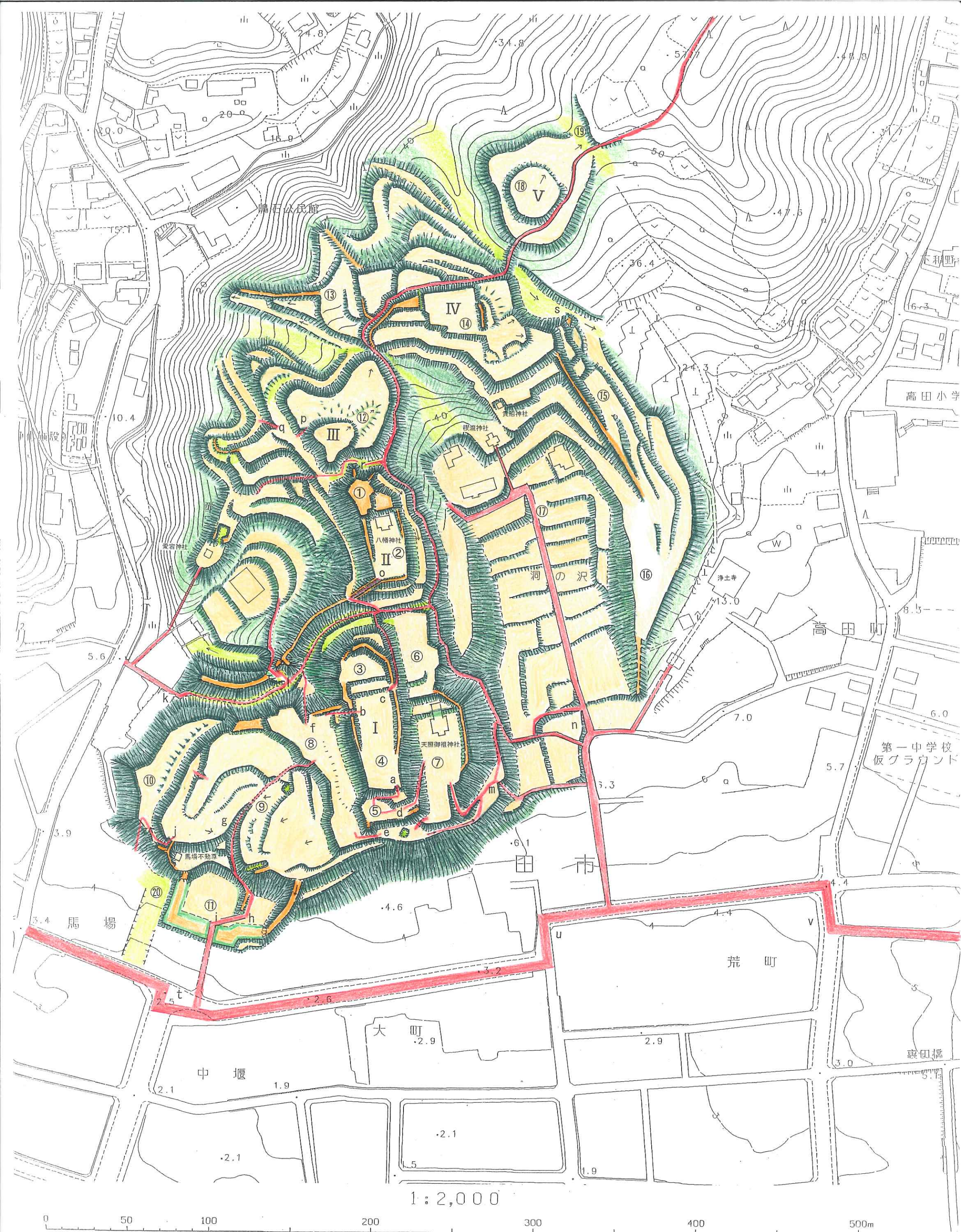
- ・ 不明な多いが、高田城の城域であった可能性がある。

① 新しい時期のⅠ、Ⅱの区域と古い時期のⅢ、Ⅳの区域がともに残されていることに価値がある。この新旧の区域を比較検討することにより、高田城の変遷や高田町の形成過程の解明等の研究に結びつく。二つの区域は高田城として一体のものである。

② Ⅲ、Ⅳを他の市内の城館跡、特に浜田安房守広綱が支配した時期の城館である米崎城、蛇ヶ崎城等との比較検討により、当時の気仙地区の支配体制の解明に結びつくものである。

※備考

- ・ 現在、Ⅳ、Ⅴについては、復興事業により、高台住宅地に整備されている。



陸前高田市高田町字本丸外

高田城跡（八幡館跡）

調査日 平成 25 年（2013）1 月 10 日・同年 4 月 10 日・11 日

作図 室野秀文 （基本図 陸前高田市都市計画図）